

◆大地震が起きる前に、事前に行えること

①家族内での確認

大地震で交通機関が途絶えたときは、帰宅できない場合もあることをあらかじめ伝えておきましょう。

②安否確認手段を決める

安否確認の手段(どの手段、どの電話番号で登録・再生するのかなど)について決めておきましょう。

◎ご利用ください

・災害用伝言ダイヤル【171】 電話機から音声の伝言を録音・再生するサービス。
・災害用ブロードバンド伝言板【web171】 インターネット上で、安否情報を登録・確認するサービス。
・携帯電話を利用した災害用伝言サービス (携帯電話各社提供)携帯電話で安否情報を登録・確認するサービス。

③職場・学校に一日以上留まるための準備

大地震で交通機関が途絶えたとき、職場や学校に一日以上留まり翌日以降に徒歩で帰宅することを考えてみましょう。翌日帰宅は、大勢の人が一斉に徒歩で帰宅することによる混乱を抑えるのに大変効果的な方法です。

◆徒歩帰宅する場合に備えて

十分な情報がないまま徒歩帰宅を開始するのは大変危険ですので控えましょう。

【歩き出す前の確認事項】

- ・帰宅ルートを決めておく。
- ・危険な場所は避ける。
- ・職場などに防災グッズを用意する(1日分の水・食糧を準備)。
- ・自分の体力を過信することなく、余裕を持って慎重に行動する。

★詳しい内容は…内閣府(防災担当)地震・火山・大規模水害対策担当

<http://www.bousai.go.jp/>

◆終わりに～「備えあれば憂い無し」～

市民の皆さんには、日ごろから「自分たちの安全は自分たちで守る」といった自助・共助の心構えを持っていただくことが必要です。

非常食や必要な生活物資等の備蓄など、災害への備えをしていただくことにより行政と市民が協働して安心・安全な地域をつくるのが重要ですので、ぜひともご理解とご協力をお願いします。

・・・皆さんでチェックしてみてください・・・
家庭内での安全対策

初期消火の準備について		対策方法は
<input type="checkbox"/>	消火器がありますか	購入して準備してください
地震の揺れによる対策について		対策方法は
<input type="checkbox"/>	家具の転倒防止をしていますか	柱などに器具を使って固定してください
<input type="checkbox"/>	収納物が飛び散らないようにしていますか	開放防止のストッパーを取り付けてください
<input type="checkbox"/>	ガラスの扉が付いた家具の破損防止をしていますか	ガラスに飛散防止のフィルムを貼ってください
家庭内の備蓄について		地震、即避難ではありません
<input type="checkbox"/>	食料や飲料水の備蓄はありますか	最低3日分、(水は1人1日3リットル)
<input type="checkbox"/>	非常持ち出し品の用意はしてありますか	非常用持ち出し袋(着替え、食料、飲料水、薬、ラジオ、懐中電灯、貴重品などの最低限の非常持ち出し品)を用意してください
家族防災会議について		効 果
<input type="checkbox"/>	家族内で日頃から防災に対する話し合いをしていますか	避難方法、連絡方法、役割分担の確認をしておきましょう
<input type="checkbox"/>	避難所は分かりますか	避難所(小・中学校など)の位置を確認しておきましょう
<input type="checkbox"/>	家族で避難所まで歩いたことがありますか	避難経路等を決めておくのも、いざというときに慌てることがなく避難ができます



3.11東日本大震災に学ぶ ～日ごろの備えが減災に～

昨年3月11日に発生した「東日本大震災」から、まもなく1年が経過します。市では、震度5弱の揺れがありましたが、幸いにも人的被害はなく、家屋の屋根瓦やブロック塀などの崩落、集合住宅の給湯設備などが被害を受けました。(表1)

また、JRをはじめ首都圏の交通機関が麻痺し、帰宅ができなくなった人たちが多数発生しました。北本市でも北本駅を利用する人たちが影響を受けました。

大震災発生直後に起こった「東京電力福島第一原子力発電所」の事故により、電力供給量が大きく減り、計画停電の実施や節電が呼びかけられ、日常生活に支障がでました。さらに放射性物質が大気中に放出され、健康や食生活に不安が生みだされていますが、その不安の解消に努めてきました。

これらの複合的な災害への対応は私たちが経験したことのないもので、この対応・経験を教訓として、今後の防災計画に活かし、より安心・安全、災害に強いまちづくりを進めていきます。

◆問合せ くらし安全課危機管理・消防防災担当(直通594-5523)

◆東日本大震災による北本市の被害状況 (表1)

被害状況	件数
家屋の屋根などの損壊	153件
給湯設備などの破損	37件
避難状況	137人
帰宅困難者	約300人
液化化被害	1カ所

◆東日本大震災後の北本市の対応

①災害発生直後の対応

市では災害発生時に、防災行政無線を発信するとともに、自主防災組織の皆さんと市内の被害状況の把握に努めました。

また、避難が必要な皆さんの避難所を開設しました。

(表2)

市の対応	場所
防災行政無線を発信	市内全域
避難所の開設	市内
避難者誘導	文化センターまでの誘導
帰宅困難者待機所確保	市内
帰宅困難者誘導	文化センターまでの誘導
消防団による警戒パトロールと情報収集	市内
災害用資機材・備蓄物資の提供	避難所(文化センター、栄小学校)
災害対策本部の設置	市役所庁舎内
災害時等における協定に基づく大型発電機の借り上げ	市役所敷地内
メールによる情報の配信	市内

②その後の対応

引き続き被害状況の確認とともに、地震直後に発生した「東京電力福島第一原子力発電所」の事故により放出された放射線量の測定を行いました。

(表3)

市の対応	場所
巡回パトロール	市内
放射線量の測定(大気中の放射線量、水質および土壌に含まれる放射性物質濃度、ホットスポットの調査)	小中学校、保育所等、公共施設、公園など
学校などの給食食材の検査	小中学校、保育所(園)
放射線量測定器の貸し出し	市内
被災地への支援物資の受付、提供	市内
被災地からの避難者受け入れ、支援	市内
被災地への職員派遣	被災地(宮城県石巻市)

③今後の災害に備えて

首都直下型の地震が起きる確率を国や研究機関が発表しています。それによると高い確率で発生が予測されており、市では備えに努めています。

(表4)

市の対応	内容・場所
防災行政無線の整備改修	新規5局、移設2局、スピーカーの調整交換
備蓄物資の拡充	食糧などの追加備蓄
災害用資機材の拡充	発電機の追加備蓄
住宅耐震診断・耐震補強工事の補助拡充	昭和56年5月31日以前の確認申請に基づいて建築された住宅
市内施設の耐震工事	市立小中学校
防災組織の拡充	自主防災組織の拡充(市内47団体、51.8%の組織率)

